



とつか

2024年2月会報 第352号

国際会長(IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)

2023 主 題 “Let Your Light Shine” 「輝かそう、あなたの光を」

スローガン “Good Communication is the Cornerstone in Every Cooperation”

「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」

アジア太平洋地域会長(AP) 利根川 恵子 (川越)

~ 主 題 “Be the light for change” 「変革のための光となろう」

スローガン “Shine and empower through fellowship” 「親睦を通して、輝き、力を得よう」

東日本区理事(RD) 山田公平 (宇都宮)

2024 主 題 “Instil Confidence in our Youth!”

「未来のために今、学びと気づきを！未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

スローガン “Youth Empowerment through SDGs Youth Action”

「ユースアクションをワイズの主要な活動の一つに」

湘南・沖縄部部長(DG) 黒川 勝 (金沢八景)

主 題 主 題 “初心に帰り、新たな船出に踏み出そう” 副 題 「ワイズメンズクラブはYMCAとともに」

クラブ会長 吉原 訓 主題「原点回帰」：副会長若木一美・書記 加藤利榮・会計 岡 進・メネット 吉原和子



会員ひとこと

☆ 本来ならば…… ☆ 有田 征彦



本来ならば1月1日という希望に満ちた日が、一瞬にして崩れた能登半島地震。翌日は、その支援機と民間航空機の間を疑うような事故不安の中で迎えた2024年の幕開けとなりました。1月7日～9日、YMCA同盟スタッフとして被災地を訪問し、金沢YMCA、富山YMCAの会員職員の無事を確認した後に被災地の七尾市、輪島市に入りました。いつかプライベートで訪れたいと思っていた朝市通り(輪島市)は一面の焦土となり目を疑うばかりでした。自衛隊や消防の方が行方不明者の捜索をしている様子を、手を合わせながらじっと見つめているご家族(らしき)の方の姿を見て言葉がありませんでした。また、輪島高校の避難所を訪問させていただきましたが、400名の避難所を被災者でもある市の職員が3名で運営するという厳しい現実を目の当たりにしました。

コロナ禍で策定された「日本YMCA中期計画(2021年4月～2024年3月)」の基本聖句「光は暗闇の中で輝いている。」暗闇の中にある人が、本来もっている賜物を輝かせることができるような場や機会を提供して、被災地に寄り添いYMCAらしい支援を進めていきたいと思ひます。

◎ 今月の聖句 ◎

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐みの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。

—コロサイの信徒への手紙第3章12節—

人間は痛みを体験して初めて“こんなに苦しく、悲しいものなのか、だとすれば誰にもこの苦しみは負わせたくないもの。”と考えるでしょう。その一方で、それを負わせた相手にも…といわば復讐の思いを抱くことも。そうした思いが人を戦争に駆り立てる原因にも…。

強調月間

TOF UGP HTW

TOF: Time of Fast (断食の時) 会合時の食事を抜いての献金

UGP: Unified Global Project (統一国際プロジェクト) 国際レベルでの統一奉仕事業の意味で、次のHTWもその一つ。

HTW: Heal the World (世界を癒そう) 拠金額の定めはないが、10年前、ワイズ運動の一環として国際が提唱した。

《 1月の会合 》

◎ 1月13日(土) YMCA・部合同新年会兼例会

◎ 11名出席

◎ 出席率: 92% (例会報告参照)

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

★強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う★



日 時：2024年1月13日(土)17～19時
会 場：中華街・広東飯店
クラブの出席者：吉原会長・浦出・加藤・
薩摩・鈴木・瀬戸・土方・若木
メネット：吉原・加藤・若木

(以上11名・敬称略)

小雨交じりの初雪の舞う中、コロナで中断していた標記の会合が4年ぶりに開催されました。

YMCAからは、佐竹総主事と7クラブの担当主事が参加、ワイズは、横浜9名・鎌倉4名・とつか10名・厚木7名・八景5名・つづき5名・つるみ5名の総計53名、それに何名かのゲストやビジターの皆さんでした。

定刻17時・開会セレモニー、佐竹・黒川両氏のご挨拶の後、早速、加藤さんの発声でカンパイ！…会食となりました。次から次と運ばれてくる料理に舌鼓をうちながら、ゆっくりと歓談のひと時…、これと言った議題や余興もなく、参加者皆さん、ゆっくりと久しぶりの対面会合にくつろいで、笑顔で歓談・舌鼓を打っておりました。

とつかクラブでは、薩摩館長と瀬戸担当主事はお隣のテーブルになりましたが、ほかの方たちは一つのテーブルを囲み、鈴木コンパニョンの見事な手さばきで、美味しいお料理が均等に配られるのを見惚れておりました。

鈴木さん、有り難うございました。

開宴から1時間ほど、おなかも満足した頃に、司会の古田部書記から「伝達事項はありますか？」ということで、つづき・横浜からは入会予定者の紹介、またゲストの

田口努同盟総主事から、元日に発生した能登半島沖地震の報告があり、ご自身も被災地へ足を運ばれ、過去の阪神・淡路、東日本、熊本とは道路状況が違ふこと、高齢の方が多いこと等、金沢・富山のYMCAが基地となり、支援活動に取り組んでいる旨などの報告がありました。また、厚木の小松さんからは、新クラブの設立準備状況、佐藤さんからは、いつものレクゲームがあり、また横浜の古賀さんから、YMCA会員大会の案内などがありました。

献金では2万円が集まり、能登半島募金として用いられるよう佐竹総主事に托されました。

会の終わりは、久保次期部長の3本締めで、めでたくお開きとなりました。

雨や雪の止んだ寒い中華街通りを、それぞれに家路へと肩を寄せ合いながら歩を早めました。

ワイズ年度も残り6か月、部・クラブ共々に次期へ向けての準備に入ることでしょう…。



☆ 今年はクラブ設立30周年に… ☆

加藤 利榮

今、一冊の小冊子(A4判・8頁)が手元に置いてあります。表紙に「横浜とつかワイズメンズクラブ25周年記念年譜～クラブ25年の歩み～2019年5月18日発刊」とあり、ページの初めには、奉仕対象となる湘南とつかYMCAの紹介とクラブのチャーターメンバー25人の氏名・ワイズ年度・会長名・出来事等が年度順に8ページにわたり、かなり詳細に印刷されております。然しながら、今やこの小冊子をお持ちのメンバーはごく僅かではないか…と思います。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、一方で、この周年記念行事は、クラブの設立が湘南とつかYMCAの設立と相前後していることから、周年式典を今までYMCAと合同で開催してきました。10年前の20周年の際のブリテンを見ると、当時、副会長職にあった吉原 訓ワイズが、「クラブ創立20周年を迎えて」のテーマで、当日の記念講演者松永春氏と私の3人の写真と共に、その様子がリアルに記載されております。そう…その松永さんですが、確か5年前の25周年の際にもお願いして、お話を伺ったように記憶しており、かつて、作曲家の故高木東六さんをクラブに紹介されたり、「赤い靴記念文化事業団」の主宰者として、生粋のハマッ子の彼のユーモア溢れるお話は懐かしい思い出です。

ご存命なら、91…になられるかと記憶しております。

そんなこんなで、まさか松永さんにお願いするわけにもまいりませんが、これからジックリとYMCAと相談させてもらおうと考えております。今のところ、YMCAでは、3月30日辺りを記念式典の日に…と伺っております。時節柄…と申すのもおかしい話ですが、湘南とつかYMCAのリーダー会を軸とする行事を…と考えて…？

それと、もう一つの問題は、さきに掲げた「年譜」についてですが、こちらは～その続編を作るか否か～皆さんと協議の上で…ということにしたいと思います。その他の記念行事についても、更に煮詰めたうえで…と思っております。

かつて、ヨコハマにいた当時、入会后間もないころに、40周年を迎えた思い出がありますが、その折も「記念誌」を作らず、50周年の際に初めて作った記憶があります。年譜の件につきましても協議したいと思っております…。

なお、ひと言付け加えるなら、ヨコハマも当方も同年配、もっとも、ヨコハマの方は12月生まれですが、当方は2月生まれ…の差はありますが…。さらに、ひとこと……。西の神戸クラブと当方の生年月日は同じ日です…！

～これになにかのごエン…？～

特別 寄稿

☆更なるご理解とご協力を☆

湘南・沖縄部 部長 黒川 勝

とつかクラブのみなさん、今年もよろしくお願いします。元旦から能登半島地震、翌日には羽田空港での飛行機事故と、おめでとうございますとも言にくい2024年の幕開けですが、亡くなられた方々のご冥福を祈るとともに、被災地の皆様には心からお見舞い申し上げます。

昨年は、ワイズメンズクラブの湘南・沖縄部の部長として、YMCAの事業への協力から、エイズ文化フォーラムの実行委員やインターナショナルチャリティーランの実行委員長も担わせていただきました。エイズフォーラムでは、感染症としてのエイズと、コロナとの共通点や若者への性に対する教育や多様性を認め合う社会といった視点からエイズが現在も重要な課題であることを学びました。チャリティーランでは、私自身も視覚障がい者の人と一緒に走ったり、視覚障がい者の友人とチームで参加したりと、これまでにない自らが走る実行委員長となりました。また、戸塚のYMCAで開催した湘南・沖縄部大会では、横浜市の職員として働くウクライナ人のナタリア・コヴァリエスカさんをお招きし、国際理解を進める取り組みにもチャレンジしました。(写真)

もうひとつの部長の楽しみは各クラブへの公式訪問です。とつかクラブや横浜、つづきなどは式次第に則ってきっちりされているクラブという印象ですが、つるみクラブは毎回ピアノとギターの伴奏でみんなで歌を歌う例会をされており、厚木は講演が主体でした。鎌倉ではヘルマンハーブの演奏会を鑑賞させていただき、つづきクラブのYou & Iコンサートも素敵な弦楽合奏の演奏会でした。それぞれに私の所属する金沢八景クラブとは異なる・個性的な運営で、その集合体としての湘南・沖縄部の面白さを体感できるのを部長だけの特権にしておくのはもったいないと感じました。

部長としての役割も後半戦に突入ですが、東北の震災や熊本地震でもYMCAはボランティアの拠点や避難所の運営に大活躍しており、横浜のYMCAからも多くの職員が派遣されていたと聞いています。能登半島地震の復旧・復興については、時間が経つにつれて支援の方法も変わってくることはと思いますが、YMCAを支援するワイズとして出来ることを皆さんと共に考え、被災した人々に対して出来ることを最優先に考えていきたいと思っています。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



新年随想

☆共に地域課題に取り組むパートナーとして☆

湘南・沖縄部 担当主事 阿部 正伴



日頃より横浜YMCAの諸活動にご理解をいただき、また、2023年度も多大なるご支援とご協力を賜り、深く感謝します。

3年にもわたって私たちを悩ませてきた新型コロナウイルス感染拡大も落ち着きを

見せ始めた2023年度は様々なイベントが再開されました。

6月に行われた第26回ワイズメンズクラブ東日本区大会に湘南・沖縄部の担当主事として初めて参加させていただきましたが、2日間を通して、ワイズメンズクラブの皆さんの熱い思いを直接感じることができました。

また、10月にMM21地区で開かれた「横浜YMCAインターナショナルチャリティーラン」は、湘南・沖縄部の皆さんの多大なるご協力のもと、盛大に行うことができました。

話は少し変わりますが、私が在籍している厚木YMCAについて2つお話しします。

現在、厚木YMCAは厚木市と「災害時における一時滞在施設に関する協定」を締結しており、災害時に公共交通機関が停まり帰宅できなくなった「帰宅困難者」に対して厚木YMCAを一時的に避難場所として提供することになっております。

また、厚木地域で農業を営んでいらっしゃる方々のグループ「依知野菜クラブ」の皆さんが週に2回、新鮮な「朝採れ野菜」を厚木YMCAの玄関前で安価で販売し、会員の方々や地域の方々が毎回YMCAの玄関前に並ぶほどの大好評を得ています。

実はこの2つ、ワイズメンズクラブの皆さんから繋いでいただいたご縁で始まったものです。

YMCAとワイズメンズクラブは共に支え合うもっとも近いパートナーとして、上にも述べたチャリティーランや各YMCAにおけるチャリティーバザーなど、様々な行事やイベントにご協力いただいておりますが、私はYMCAがそれぞれの拠点において、「地域に根差す」ことを活動理念としている中で、地域のニーズとYMCAをマッチングして新しいことを生み出していく「橋渡し」的な役割をワイズメンズクラブには担っていただきたいと考えております。

「YMCA」と「ワイズメンズクラブ」と「地域」が一体となって地域社会の課題に取り組んでいくことこそYMCAとワイズメンズクラブのあるべき姿ではないかと思います。

これからも地域の課題に共に取り組むパートナーとして、YMCAとワイズメンズクラブは支え合いながら活動を展開していきたいと考えております。

(以上)

《レザン通信》

☆ 新年に毎年恒例の…☆

横浜YMCAワークサポートセンターレザン 相馬 良文



レザンでは、1月12日(金)、毎年恒例の「書初め」を行いました。自分の好きな言葉や気に入っている事柄を書き出しました。一方、アンジュでも、活動の目標や課題を選ぶ方が多くいらっしゃいました。どちらも、現在、施設内に展示中です。「筆を使って文字を書く」非日常的な行動は、集中力を高め、心を落ち着かせることに繋がります。✂

地に足を付けて、さまざまな活動に取り組んでまいります。本年もよろしくお願いいたします。





担当主事 瀬戸 俊孝

横浜 YMCA が実施するピンクシャツデー、「いじめのない世界をめざそう」ということで、横浜 YMCA では2月の最終水曜日をいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す日としております。

「ピンクシャツデー」は、2007年、カナダの学生2人から始まったいじめ反対運動です。ある日、ピンクのポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入、インターネットで「明日、一緒に学校でピンクのシャツを着よう。」と呼びかけました。翌日、学校ではこの呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンクのシャツや小物を身に付けて登校、学校中がピンク色に染まり、いじめが自然と無くなったそうです。カナダで最初にこの出来事があった日が、2月の最終水曜日でした。それ以降、2月の最終水曜日に私たちもいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す1日としています。



【今月の歳時記】

“ 聖燭節・立春 ”

せいしよくせつ：2月2日はカトリックの祝日で聖燭節という。

正しくは「聖母マリアの御潔めの祝日」という。キャンドルマスともいう。キリスト誕生後40日目に、聖母マリアが当時のイスラエルの慣習に従い、神殿にキリストを献げたのを祝う日で、教会では信徒たちによって、ろうそくの祝別式が行われる。

聖燭の夜をまな妻が白鷺ペン	蛇 笏
月光に燭爽かや灯取虫	蛇 笏
聖燭祭尊き使徒ら壁に古り	三 鬼
聖燭祭工人ヨセフ我が愛す	三 鬼

りっしゅん：節分の翌日で、2月4日頃に当る。暦の上でようやく春になった、ということで、まだまだ寒さは厳しいが、さすがに、日は一日一日と長くなり、野には草木が芽吹いてくる。「春立つ」ともいう。

寝ぐゝろやいつちともなく春は来ぬ	蕪 村
春立つや風の灯くらき山社	子 規
落葉焚いて春立つ庭や知恩院	虚 子
立春の雉子を描きて画布立てる	秋 櫻子
春立ちて三日嵐に鉄を鑄る	草田男

- ◎ 2月12日（月・祝）会員大会 ―ピースフォーラム―
特別公演「戦争」・「平和」・「未来」の作り方
～ウクライナ戦争から、パレスチナ・イスラエル戦争
そして地球環境を考える～

講師フォト・ジャーナリスト 桃井 和馬 氏

会場：湘南とつかYMCAホール・10:00～12:30

- ◎ 2月25日（日）ワイズサッカーフェスティバル

会場：湘南とつかYMCAホール・13:00～16:00

対象：年長～2年生とその家族（鎌倉・とつか・藤沢）

費用：¥2,000 円

申込：各YMCAごとに設定・2月11頃まで

その他：大会終了後、とつかクラブは、2月例会を
予定しています。

- ◎ 2月28日（水）横浜 YMCA ピンクシャツデー

‘Ｙだより’にもあるように、いじめのない社会
を目指す運動で、2月の最終水曜日がいじめについ
て考える日とされています。

～Happy Birthday～

瀬戸俊孝さん 2月7日

加藤利栄さん 2月17日

吉原和子さん 2月24日

知っているようで…

(その一) 2月のハナ・ベスト5 と 花ことば

- ① 梅：高潔・艶やか
- ② 椿：女性らしさ・控えめな素晴らしさ
- ③ 福寿草：幸福・幸せを招く
- ④ 沈丁花：私の美・自己愛
- ⑤ 菜の花：豊かさ・快活さ

(その二) ‘立春’とは…?

立春とは、二十四節気の「春の始まり」であり、一年の
始まりとされる日を指す。中国が起源で、太陽の動きに基づ
いて、1年を4つの季節に分け、さらに6つに分割している。

立春・立夏・立秋・立冬で四立(しりゅう)と呼ぶのだそう
で、それらの前日が「節分」…、ということは、本来、年
4回めぐってくる。中でも、1年の終わり・大みそかとも
いえる立春の前日が、今も豆まきが節分の行事を行う
ことで知られています。

【お詫びと訂正】

本年1月号会報（2頁・下段左側・下から18行目以下）に誤り
の記事がありました。関係の方々にご迷惑をおかけしたことを深く
お詫び申し上げます。以下のように訂正させていただきます。[加藤]

「…、今から30年ほど前、会長懇談会を前史として、YMCA、ワイズ
が相互理解と協働関係をいっそう密にするためにこの協議会が始まり、
1998年度に第1回が開催された。2008年には実施要綱も整備され…」

—以上—

〈後記〉深い傷痕を残した能登震災、一日も早い復興を…。(t/k)